

SAMPLE サンプル 試読

小説

変態ですみません

SM小説

日曜日の奴隷たち

あんぷらぐ

荒縄工房

本作品はすべてフィク  
地名・団体とは一切関  
人、団体、宗教、人種  
はありません。

あんぷらぐ

S M雑誌に「仲ゆうじ」名でS  
編集の仕事に携わる。九〇年代  
二〇一一年「荒縄工房」より「  
伝奇S M小説などを発表。二〇

## SAMPLE サンプル 試読

ンであり、実在する人物・  
りません。また、特定の個  
別などを誹謗中傷する意図



を執筆して作家活動をスタート。その後、  
ットで複数のペンネームで小説を執筆。  
らぐど」名義で独自の自虐的S M小説、  
「あんぷらぐ」に改名。東京在住。

# 目次

S M小説・日曜日の奴隷たち	5
・ 主な登場人物	6
・ 夕食のおかず	7
・ 恋の悩み	3 5
・ こじらせ上手	6 4
・ 緊縛遊戯	1 3 8
・ 露出遊戯	2 0 6
・ 愛の代償	2 3 6
・ 無慈悲欲求	3 0 7
・ 終章	3 7 6
小説・変態ですみませ	4 4 3

**SAMPLE サンプル 試読**

奥付	・百恵	・丸夫	・鯨井	・朝子
7	7	6	5	4
7	1	3	4	4
0	9	9	9	4

S  
M小説・日曜日の奴隸たち

あんぷらぐ著

・主な登場人物

露木健 四十代後半

村木和代 三十代後半

リリアンK 二十代後半

松井奈美 四十代。頭を

佐恵 二十代。国立大学

春日 佐恵の父。アパ

SAMPLE サンプル 試読

の全身剃毛。

子生で奴隷。

性営。郷土史研究家。

・夕食のおかず

奴隷たち。

あえて愛をこめて酷い言い方をするのだが、被虐的な快楽を求める彼女たちを奴隷と呼んであげることとは一種の褒め言葉だと露木は考えていた。

村木和代が彼の奴隷となったきっかけは、ハプニングバーで顔見知りの男に紹介されたからで、そのときは彼女の名前も素姓も知らなかった。

「いじめ甲斐がありますよ。ただし、ちよつと都合があつて、それが気に入らないのです。あなたならいいかもしれないと思つたんですけどね」

その紳士は仲間うちで予備校の経営をしていると  
れていた。予備校に来るような若い女は好きではな  
中年の脂の乗った肉体が好物だった。

たしかに和代は三十代後半にしては若く見えるも  
の、随所に加齢の兆しが現れていて、とくに指先や  
は生活の痕跡をリアルに示していた。それでいて、  
なじ、襟元、二の腕などに吸い付きたくなるような  
気がある。肌のくすみ以上にこの妖艶さは、男には  
激的だった。

和代は日曜日の朝、寝ている夫や息子たちを起こ  
ないようにして、彼らの朝食兼昼食を作る。チャー  
ンやカレーが多いという。

**SAMPLE サンプル 試読**

髪に微かに油やスパイスを感じることもある。

露木はそれを楽しみにしていた。そして狂ったように乱れている彼女に言うのだ。

「悪い女だな。旦那や子どもに適当に作ったカレーを食わせておいて、自分は大好物のご主人様のマラを頬張るのか」

「ああ、言わないでください。わたし、あの人たちのご飯を作りながら、すごく淫らになっていくんですから」

和代は、カラオケで延々とJPOPを歌う。声は若く透き通っている。

「メシを作りながら発情するのか。どうしようもない

やつだな。厳しいお仕置きが必要だね」

「はい、お願いします。うんときついのをください」

露木は手加減はしないが、配慮はした。たとえば顔、首、腕、手首、膝から下など、目立つところに跡が残らないようにすることだった。

美しい緊縛をしたときは、それが可能な女性にする。和代については、特殊な縄使いをした。

「くううううう、きついい！」

年齢に合った低い声が、興奮してくると、徐々に高くなり、最後には少女の歌声のようになる。

好きなくせに和代は苦悶する。露木は出会った最初から、きつく責めた。

太ももと膝の裏に縄をかけて、乳房を思い切りくくりあげた縄につなぐ。ぎゅっと引き絞ると、足と乳房が連動するようになる。股間を剥き出しにして、足を少しでも動かせば乳房がもがれるような痛みになる。

「オツパイがちぎれたら、さすがに家族に気づかれるかもしれないぞ」

「ああ、そんなあ」

手首、足首にはタオルを巻き、その上から柔らかかな枷をつけて、その枷にあるリングに縄を通す。直接は縛らない。

身動きできない形で床に転がされ、あそこを大きく広げている。

朝食を作ったあと、軽く化粧をして、あくまでも友だちとの昼食会であるとか勉強会といった名目で外出するので、着飾ることもない。

もつとも、露木と待ち合わせて数分後には全裸になるのだから、どんな服を着ても関係はないのだが。

露木はホテルをほとんど利用しなかった。人目を避ける点にかけては常に慎重だった。嫌な予感がすればキャンセルして別の場所に変更した。日曜日の昼間に、ホテル街などで誰かとバッタリ会う可能性は常にある。露木のような嗜好で、少しはその道で顔が知られている場合は特に危険だった。

危険は、彼女にも及ぶ。露木とホテルに行くという

ことは、特殊な好みの女だと知れ渡ることだから。紹介されたときに、すでに知られていたとしても、露木の女とわかれば、より面倒になりかねなかった。

女に面倒が起これると、それは露木に直接、跳ね返ってくる。

女がいくら露木と深く関係したと主張しても、露木はその客観的な証拠をできるだけ少なくしておきたかった。

そこで、露木は信頼できる知り合いであるとか、自分が所有している、または借りている場所を使うことが多かった。

この日は、知り合いが管理している借家で、築五十

年の建物だった。不動産業のその人物はこうした空き屋の鍵を持っていた。

「いまどき借家でこんな古いのは借りる人がいないのよ」とその人物は言う。「大家さんに建て直すように勧めてるんだけど、相続で揉めてるらしくて、もう少し待ってくれって言われちゃって」

畳も床も掃除はされているのだが、古く、きしむ。取り壊せばいいようなものだが、更地にして長く放置すると固定資産税が高くなるらしい。

不動産屋によれば、こうした空き屋が都内にかなりあるらしかった。

和代を畳に転がすと昭和のSM雑誌に掲載されていた

たグラビアのような風情になる。黄ばんだ曇。薄汚れた襖ふすまや障子しょうじ。それを露木は楽しんでた。

彼の好み通りに縛れない不満を、和代の急所に対する責めにぶつける。なにがあっても、家族にバレにくい場所だ。

「今日はこれで楽しませてやる」

銀の小さなケース。それを開くと医療用の注射針がずらっと並んでいた。使い捨ての注射針ではない。消毒して使い回すタイプだ。すでに使用期限は切れてい  
るだろう。先端はそれだけ鈍り、痛みは強くなり、跡も残る。

「ううう、お許してください」

「許してあげる。きれいに飾ってからね」

「きいいい」

日曜日の昼間。誰も住んでいないはずの家から女の叫び声が近所に響くのはよくない。露木は豆絞りの手拭いとゴルフボールで彼女の口を塞ぐ。手拭いを二本使って、間にゴルフボールを入れ、それを彼女の口に押し込んでから頭の後ろできつく縛る。

「ついでだ。これぐらいはいいだろう」

鼻フックを見せると、彼女は嫌がった。恥ずかしく、きつい上に、鼻にあとが残る可能性もあったからだ。

しかし誰が鼻についた微かな跡を、鼻フックによるものだと想像するだろうか。

和代は化粧して町を歩けば、ごく普通の女性で、目立つほど美しいわけではないが、もしそこにほのかな色気を感じ取ることができれば、声をかけたくなるようなタイプではあった。

同時に、下手に声をかけると、あからさまなしつぺ返しを食らいそうな、ややきつめの気性に見える。

その顔が歪んでいく。

ゴルフボールによって大きく口を開けさせられているので、唇も裂ける可能性はあった。

だが、主婦の唇が切れていたとして、誰がそれを猿ぐつわによるものだと思像するだろう。

顔責めは、露木の捌け口でもあった。和代の制約を

守る腹いせに逸脱した行為をしてみなければ気が済まない。秘すべき性器と対象的な、化粧を含め常に美しさに気を使う顔を責める。

「どこがいい？ どうせ針責めはチクツとするだけで、見た目ほどキツくはないんだらう？」

そう言いながら、固くしこった乳首を針先で軽く突く。

「ぐっ」

猿ぐつわが似合う女だ。大きな目を見開く。早くも涙が溜まっている。見慣れている彼女ではない。ここにいるのは、被虐の悦びに浸る醜い牝。

「子どもも大きくなつたし、旦那もおまえの体には興

味が無い。だから、いまじゃ、ここを弄んでくれる人を募集中なんだろ。誰でもいいって感じだな」

指で乳首をつまみ、引っ張った。

それだけでも強い刺激だろう。

ぐふぐふと彼女は抗議する。

注射針を真横に突き刺していく。足をバタバタさせている。足からの縄が連動するため、ぎゅつと乳房を引き絞る。

「暴れると余計に痛いし、手元が狂うぞ」

そう脅しても恐怖で体を落ち着かせることができないでいる。

「ほら、貫通したよ」

和代の目尻から涙が流れ出ている。

「泣き顔もいいね」

露木はその目尻を舐めてやる。

「かつこよく突き刺したら写真を撮ってやるからね」  
両方の乳首を十文字に四本の針で飾る。その段階で  
写真を撮る。顔は入らないようにするが、鼻から下は  
画角に入れる。切り取ることで、下唇のいやらしさが  
強調される。

「いいねえ。乳輪も飾ろう」

濃い乳輪に上から下へと縦に四本の針を貫通させる。  
左右の乳房をきれいに飾って写真を撮ったあと、猿  
ぐつわを外してやった。

奥付

お読みいただき、ありがとうございました。

二〇二三年十月刊行 第一版

著作権 あんぷらぐ（あんぷらぐど）（荒縄工房）

荒縄工房の情報は下記サイトへ

●ブログ「荒縄工房」

●ホームページ

●荒縄工房 SM研究室

●今日も上機嫌ってわけないだろ

コメント、メッセージ歓迎。ご意見、ご感想、ご提案など随時、ブログで受付中。